

植調協会だより

◎ 平成14年度事業及び会計の監査

平成15年5月14日(水)、当協会監事による監査を受け、適正との結果を得る

◎ 第39回評議員会開催

平成15年5月22日(木)、植調会館会議室において開催され、次の議案につき承認を得た。

1. 平成14年度事業報告及び収支決算
2. 平成15年度事業計画及び収支予算

3. 役員の選任

退任理事 田村守雄, 松永公平, 山本佳彦

新任理事 相見正篤, 多田正世, 三浦政義

4. 十勝試験地整備

◎ 第81回理事会開催

平成15年5月22日(木)、植調会館会議室において開催され、次の議案につき承認を得た。

1. 平成14年度事業報告及び収支決算
 2. 評議員の選任
- 退任評議員 西尾隆雄
新任評議員 富久保男

編集後記

今年の春、皇居のお堀の水を抜いて、干上がった堀の中で外来魚のブラックバスなどの駆除をしている光景が、テレビなどのニュースで大きく取り上げられていた。日本古来の自然美を誇り、大都会東京のド真ん中でも自然を残していることで知られている皇居のお堀に、ブラックバスなどの外来魚を放した不届き者がいたことに、憤りを感じた人が多かったであろう。

最近には魚に限らず、動物、植物の外来種の被害が大きくなり、いろいろと問題になっている。特に植物の場合は、人々の不注意によって、知らないうちに広がって行く場合が多い。例えば、これから夏に向かい、家庭では涼を求めて水槽で金魚や熱帯魚が飼われる場合が多い。この水槽に水草を植えたり、浮かべたりする、ところがこれらの水草は殆どが外来種である。熱帯魚や金魚が元気に泳いでいるうちは問題はない。やがて魚が死んだり、飽きてくると魚を飼うのを止めて、水槽にあった水草は捨てられる。この場合水草を完全に枯らしてから処分すると問題はないが、川や池、湖などに捨てられると、これらの水草はそこに定着し繁殖する。このように悪気はないが不注意が原因で広がった外来種の水草は多くある。例えば各地で問題になっている、ホテイアオイ、オオフサモ、オオカナダモ、ハゴロモモなどがあり、場所によって駆除に多大な経費を費やしている。ほんの不注意がこれ程までの社会問題に発展する。

これから夏に向かって水槽で水草を植える機会が多くなるが、水草を扱う人はくれぐれも、後始末を完全にして、広がらないように注意してもらいたい。

㊦

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都台東区台東1丁目26番6号
電話 東京(03)3832-4188 (代)

編集人 日本植物調節剤研究協会 会長 小林 仁
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

平成15年6月発行 定価525円(本体500円+消費税25円)
植調第37巻第3号 (送料 270円)

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)3833-1821番(代)
印刷所 新 成 印 刷 (有)